



## 大津波耐へし一本松の芯 圭舟

岩手県陸前高田市のシンボル「名勝高田の松原」は大津波でこの一本を残して全てなぎ倒され、または流されました。

満身創痍となって生き残った大切な復興のシンボルを、人の助けを尽くして、枯らす事の無い様に残したいというのが読み人の気持ちであり、私達の希望でもあります。

画像は、産経新聞の佐々木正明氏のホームページから、佐々木氏が撮影したものを無断で借用しました。他にも氏の興味深い記事が沢山載っているので、是非開いてみて下さい。

<http://sasakima.iza.ne.jp/blog/entry/2225595/>

(Ctrl キーを押しながらクリックか、コピーからURL欄に貼りつけ)

### 6月10日、三役と若手役員合同で相談

メンバー：加藤支部長、大久保副支部長、川口副支部長、菊池幹事、涌井監事、星相談役

#### ——— 議題①義捐金の事 ———

本部の「みつわ会だより」でご承知の通り、義捐金が集まりつつあります。取りあえず支部長から沖会長に礼状を電信しましたが、受け取る側として、送る側に対して何等かのアクションがあるべきなので、総会に沖会長を招待することや、総会の内容、総会の名称、他に謝意の頭し方は無いか、などの相談をしました。

義捐金の使途については支部に一任されているのですが、それに相応しい、公平で効果的なものでありたいと思います。結果は平凡な形になるのかもしれませんが、この先まだ議論は続きます。

#### ——— 議題②新しい力 ———

そろそろ若手（と呼ぶことになる）が中心になって支部を沸かせて欲しいと思いながらも、まあこのままがいいか、と言いながら楽々現在に至りました。「常に前進をめざさぬ限り、そこでストップし、ついには後退がはじまる」と言ったのは、将棋の羽生名人（当時四段）が19歳で「竜王」位を奪取した時でした。（読売新聞“19歳の挑戦”）

そこで上記のお二方に同席を願い、会が「後退しない様に」発動を促しました。

若手には現役が多く、忙しいので大変ですが、7月には何人か集まることになりました。

それから、今年数名の卒業生がいるのですが、そろそろ古株は顔が分からなくなってきたので、入会の勧誘はそれに近い年代の会員が適任だろう、ということでお願いすることにしました。まずは分担が一つ出来ました。前進を続けて欲しいです。

### 支 部

### 7月の行事

### みちのく損保

◎昼食会 7月28日（木）12時～

みちのく総会 7月13日（水）

「しゃぶ禅」

◎出欠の連絡を7月22日（金）までに友彦さんに

「ウチのマンションの補修は」

3月11日、M9のプレート地震。棟同志がそれぞれ接続する部分（別棟、エレベーター棟、外部階段）のタイルとモルタル壁の一部落下、各部小～中クラック、全階エキスパンションの破損、敷地不等沈下、等が発生。理事長を中心に管理会社と住民で被災状況を暫定調査。東北管連の一級建築士事務所による診断の結果では、通常の修理で復帰可能、耐震補修を必要とする様な深刻なダメージは無いというコメント。

(1) 管理組合の対応

理事長と理事長経験者（5名）が集まって緊急復旧対策会議を立ち上げ、今後の大まかな方針を相談。その内容と実際は

・補修内容について：エキスパンションと、タイルが落下する危険がある壁の補修を優先する。経過を見ながら補修箇所と工法を検討して実施するものは、不等沈下による機械式駐車場出入口と通路のうねり、同じく受水槽の傾き、開放廊下、外部階段、ベランダ側。

・業者について：資材が無く作業員が不足しているこの時期に来てもらえるかどうか懸念されるが、大規模修繕に携わった（株）S工業に発注することにして仮契約でもいいので早目に工事契約を結ぶことが先決。

・補修費用について：予算規模の予想、修繕積立金と損害保険（地震保険）契約内容の確認。

・住民への広報について：掲示版とエレベーター内を併用する。詳細を知らせる必要があるものは、各戸にプリント配布。一方で、過剰に被災意識と不安を持たない様に、マンションが安全であることをPRすることにも心掛ける。

(2) 補修工事

S工業と工事契約（金額暫定）成立。5月16日現場着手。頭初の目視以上に損傷箇所が多い。修繕委員会と業者との打合せでは、足場は、調査、補修作業共ゴンドラとすること、エキスパンションとタイル落下危険個所の補修を優先すること、

工程表、工法、工事箇所、工事金額等（余震等も想定して流動的）を基に、毎週末に委員会と業者で打合せを行うこと、必要があれば住民説明会を設けること、を確認。

(3) 地震保険

5月に地震鑑定人による査定。ベランダ側の柱と梁も鑑定人に観てもらう必要があるのでは、調査の為専有部分へ立ち入ることを当日館内放送。前以って通知をしているので苦情等はない。「一部損」が認定された。その場で協定。現段階ではこれで工事費が賄える筈だが・・・。

6月現在、通路補修工事まで進んでいますが、地下の排水管など、予想外の被害箇所が見つかることや、作業員が足りない為通常より工程の時間が長く、費用も予定を大きく上回ります。修繕の引き合いが多数ある中、止むを得ないことなので、国難とも言われる大惨事の中にあっては、自分の都合だけで不平不満を言うてはいけない事柄の一つです。その様な中で比較的早めに工事に漕ぎつける事が出来て、作業が進捗しつつあるのは、S工業の担当者の誠意や管理会社の協力に加え、理事会と住民の理解を背景に、管理組合主導で理事長がこまめに動いた賜物です。今後も予算と工法のバランスをとりながら、無事竣工を迎えられる様に、組合も参加し協力しながら補修作業は続いていきます。

(ロイヤルパレス支倉 修繕委員長 加藤徹三記)

上記は東北マンション管理組合連合会の機関誌に寄稿したレポートを転載しました。



補修箇所のマーキング